赤穂高校 × 駒ヶ根市議会

高校生未来会議

開催日：9月27日、10月3・31日、11月21日、12月6日

会　場：赤穂高校、駒ヶ根市役所議場

信州 駒ヶ根 SHINSHU KOMAGANE

1．目的

駒ヶ根市議会では、次代を担う子どもたちがまちづくりや議会への理解を深め、若い世代の視点で駒ヶ根市のまちづくりについて考える機会を提供しようと、令和３年度に駒ヶ根市立東中学校とコラボし「こども未来会議（中学生議会）」を開催しました。地域への愛着と誇りを高めるとともに、夢や希望を織り交ぜながら「こんな駒ヶ根市にしたい！」をテーマに市に対して要望や意見を提案しました。

今回は、選挙権年齢の引き下げにより、政治や選挙が身近なものになった高校生とのコラボにより、政治や議会活動を知ってもらう機会を提供し、地方自治への関心を高めるとともに、高校生の視点から広く政治について考えるきっかけづくりとして、高校生と議員との意見交換を通じて、政策提言・立案などに繋げていこうとするものです。

2．主催　駒ヶ根市議会

3．対象　赤穂高校３年生 200 名（商業科２クラス、普通科３クラス）

4．日程

月日	内容	時間	備考
9月 27 日（金）	第１回（概要説明、ﾃｰﾏ発表他）	12 時 50 分～（100 分）	
10 月 3日（木）	第２回（ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ、ｱｲﾃﾞｱ立案他）	13 時 50 分～（100 分）	
10 月 31 日（木）	第３回（ｸﾞﾙｰﾌﾟ中間発表他）	13 時 50 分～（50 分）	
11 月 21 日（木）	第４回（最終ﾌﾟﾚｾﾞﾝ、ｱｲﾃﾞｱ選挙）	13 時 50 分～（100 分）	
12 月　6日（金）	第５回（代表ｽﾋﾟｰﾁ、意見交換他）	13 時 50 分～（50 分）	会場：議場

5．概要

政治や議会についての学習をはじめ、テーマ設定に基づいたワークショップを通じて、現状や課題を把握する中で解決方法を考えプレゼン。アイデア選挙により選出された各クラス代表１グループが議員に向け議場において発表を行います。議会は、全員協議会・常任委員会等で調査・研究・検討を行い、必要に応じて市へ要望・提言するとともに、高校生に対してフィードバックを行います。

6．担当議員

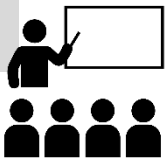
組	学科	担当議員		
A	商業科	◎竹村知子	今堀雷三	中島和彦
B	商業科	◎氣賀澤葉子	中山万宝	小原晃一
C	普通科	◎藤井邦彦	竹上陽子	宮下　稔
D	普通科	◎押田慶一	福澤美香	小原茂幸
E	普通科	◎竹村　誉	池田幸代	小林敏夫

7．テーマ

組	班	テーマ
A	1	駒ヶ根市に Vtuber を！
	2	海がないなんて関係ない「ノーマウンテンイエスオーション」レッツゴー海、きれいな海を取り戻せ。ウォーターランド駒ヶ根
	3	親と子供の心に寄り添う街
	4	駒ヶ根近代化計画～交通機関を充実させよう～
	5	駒ヶ根の自然を活かしたアウトレット
	6	暮らしている人たちが幸せと感じられる町
	7	目指せ駒ヶ根人口４万人!!
B	1	みんな駒ヶ根に住もう！
	2	バス復活作戦
	3	観光地を増やそう!!
	4	移動手段を増やそう
	5	駒ヶ根市の魅力を再発掘
	6	シャッター街の活性化について
	7	駒ヶ根市の駒ヶ根駅以外の駅を発展させる
C	1	来たいと思える街作り
	2	最先端の食文化を目指して
	3	光前寺周辺を発展させよう！
	4	子どもも大人も楽しめる商業施設
	5	誰もが楽しめる街作り～100 年先も明るい未来へ～
	6	住みやすい駒ヶ根市「古くなったのを新しく、高齢者の支援も、駒ヶ根市に何もないとは言わせない」

組	班	テーマ
D	1	ゲームを通じて駒ヶ根の魅力を伝える
	2	「子育てといえば駒ヶ根」をめざそう！
	3	ゲレンデを使った魅力発信
	4	買い物しやすい街づくり
	5	ブランド米の開発
	6	駒ヶ根の魅力を知ってもらい、ふるさと納税を買ってもらおう
	7	子ども向け季節イベント
	8	学生が訪れる駒ヶ岳に
E	1	交通の安全性の向上～安全で楽しい駒ヶ根を目指して～
	2	皆が気軽に来れる学習スペース
	3	商業施設を充実させ、若者の観光客を増やす
	4	さあ作ろう！プール復活大作戦
	5	駅前を活気づけよう！
	6	都市型公園を作ろう！
	7	New KOMA 夏を創ろう!!
	8	バスで駒ヶ根市を循環させて、駒ヶ根市を活気づけよう!!
	9	農業を衰退させないために

＝第１回＝　９月 27 日（金）



➤政治や議会を知ろう

趣旨説明、政治・議会・選挙権等の概要説明

➤テーマ発表

グループ毎選定理由や進捗状況などを発表

＝第２回＝　10 月３日（木）

➤ワークショップ

グループ別ワークショップとアイデア検討

＝第３回＝　10 月 31 日（木）

➤グループ中間発表

これまでの進捗状況などについて中間発表

＝第４回＝　11 月 21 日（木）

➤最終発表

クラス内プレゼンテーション

➤アイデア選挙

発表を聴いて一番良いと思ったアイデアに投票

＝第５回＝　12月6日（金）

➤議場スピーチ

代表５グループが議員に向けて駒ヶ根市役所議場で発表

YouTube ライブ
赤穂高校へ配信

＝議場スピーチ会議録＝

1．日　時　　令和６年 12 月６日（金）　13 時 50 分～

2．会　場　　駒ヶ根市役所 議場

3．出席者　　【 赤 穂 高 校 】３年生 27 人、和田崇教諭

【駒ヶ根市議会】議　員：竹上陽子、小林敏夫、今堀雷三、福澤美香、小原晃一、池田幸代
中島和彦、押田慶一、藤井邦彦、竹村誉、氣賀澤葉子、中山万宝
竹村知子、宮下稔（副議長）、小原茂幸（議長）

事務局：下平和弘、車田庄治、春日隆志、伊藤優子

4．次　第

（１）開　会
（２）議長あいさつ
（３）経過説明等
（４）議場スピーチ（発表順：①A 組②B 組③C 組④D 組⑤E 組）
（５）講　評
（６）閉　会（終了後、意見交換）

当日の様子はこちらから

5．代表グループ・テーマ

A 組５班「駒ヶ根の自然を生かすアウトレット」 網野聖也、伊藤さよ、掛川風保、小林柚花、宮澤慶、山本奏葉 （担当議員：竹村知子、今堀雷三、中島和彦）	
B 組６班「シャッター街の活性化について」 気賀澤碧、西出愛莉、福澤浩太、三島颯斗、矢澤愛香 （担当議員：氣賀澤葉子、中山万宝、小原晃一）	
C 組５班「誰もが楽しめる街作り～100 年先も明るい未来へ～」 唐澤昇汰、宮下昂大、飯塚美那、小松菜月、中村成那、福島琉生 （担当議員：藤井邦彦、竹上陽子、宮下稔）	
D 組１班「ゲームを通じて駒ヶ根の魅力を伝える」 池上慶志、伊藤優楽、唐澤圭都、小林美結、藤沢優太 （担当議員：押田慶一、福澤美香、小原茂幸）	
E 組４班「さあ作ろう！プール復活大作戦」 伊藤有芯、木下翔、黒澤汰聞、後藤洸瑛、橋爪奏太 （担当議員：竹村誉、池田幸代、小林敏夫）	

６．会議録

中山万宝議員　ご起立をお願いします（一同起立）。礼（一同礼）。ご着席ください（一同着席）。皆さんこんにちは。学校から参加の皆さんこんにちは。皆さん今の心境はいかがですが。私は司会者としてドキドキしていますが、皆さんの発表に対しては今ワクワクしています。しばらくの間進行を務めます駒ヶ根市議会議員の中山万宝です。ただいまより高校生未来会議場スピーチを開催いたします。なお、本日の模様は、地元ケーブルテレビ「エコーシティー・駒ヶ岳」様のご協力により、みなこいチャンネルを通じて伊南４市町村と伊那市・箕輪町・南箕輪村へ生中継されております。また、YouTube を通じて、赤穂高校３年生の各クラスにも限定配信しておりますのでご承知おきください。最初に駒ヶ根市議会議長小原よりご挨拶申し上げます。よろしくお願いします。

小原茂幸議長　赤穂高校の皆様、ようこそ駒ヶ根市議会議場へお越しくださいました。そして、傍聴席の皆様、オンラインで視聴されている皆様、こんにちは、市議会議長の小原茂幸でございます。当市議会では、政治や議会を知っていただく活動を推進しようと令和５年度に主権者教育を推進する「ワクワク未来部会」を設置いたしました。これまでに小学生の議場見学の受入などさまざまな取り組みを実施してまいりました。そのような中で、今年度からの新たな取り組みとして「高校生未来会議」を企画しました。当企画は、選挙権年齢の引き下げにより、政治や選挙が身近なものになった高校生の皆さんに政治や議会活動を知ってもらう機会を提供するとともに、高校生の視点から広く政治について考え提案いただく中で、市議会として政策提言などにつなげていこうとするものであります。赤穂高校３学年５クラス 200 人が参加しております。各グループによるテーマ数は 37 にのぼり、その中からクラス代表５グループによる５つのテーマが選ばれました。これから始まる議場スピーチを議員一同大変心待ちにしておりました。自信をもって発表していただきたいと思います。それではよろしくお願いいたします。

中山万宝議員　続きまして、高校生未来会議のこれまでの経過や本日の発表方法につきまして、駒ヶ根市議会ワクワク未来部会部会長の竹村よりご説明をいたします。

竹村知子議員　皆さんこんにちは。駒ヶ根市議会で主権者教育を推進する部会「ワクワク未来部会」の竹村知子です。ただいま小原議長からの挨拶のとおり、今年度は赤穂高校３年生の皆さんとコラボをさせていただき、９月からの約３ヶ月間、政治や議会などの学習をはじめ、各グループにおいて設定をしたテーマに基づいてワークショップを重ねてまいりました。11 月 21 日にはクラス毎で最終発表を行い、クラス毎のアイデア選挙で最多得票を得た各クラスの代表５グループがここに皆さん集まっていただいております。本日この議場で議員に向けてスピーチをしていただきます。発表するクラス代表グループの皆さんは緊張するかもしれませんが、ぜひ頑張っていただきたいと思います。また、学校に残って YouTube から参加いただいているクラスメイトの皆さんも、代表グループの頑張っている姿をしっかり見守っていただきたいと思います。なお、本日スピーチいただく内容については、今後、当市議会で調査・研究を行い、必要に応じて市へ要望や提言するとともに、高校生の皆さんに対してフィードバッ

クを行ってまいります。発表については、A 組から順に発表していただき、全グループの発表終了後に、各クラスを担当した議員から講評をさせていただきます。議長がグループ名を呼びますので、演壇へ移動し、自己紹介をした後に発表を始めていただくようお願いいたします。皆さんの発表を楽しみにしています。以上、簡単ですがこれまでの経過と発表方法の説明とさせていただきます。

中山万宝議員　それではこれよりスピーチを始めます。以降の進行は小原議長にお願いいたします。小原議長は議長席へ登壇をお願いいたします。

小原茂幸議長　それではこれよりスピーチを始めます。名前を呼ばれたグループは演壇に移動し、自己紹介の後、発表をお願いします。発表順位１番、A 組５班の皆さん発表をお願いいたします。

３年Ａ組５班　３年Ａ組網野聖也です。３年Ａ組宮澤慶です。３年Ａ組山本奏葉です。３年Ａ組掛川風保です。３年Ａ組伊藤さよです。３年Ａ組小林柚花です。これから３年Ａ組の発表を始めます。私達は駒ヶ根の自然を生かすアウトレットを考えました。これはメンバーの写真です。

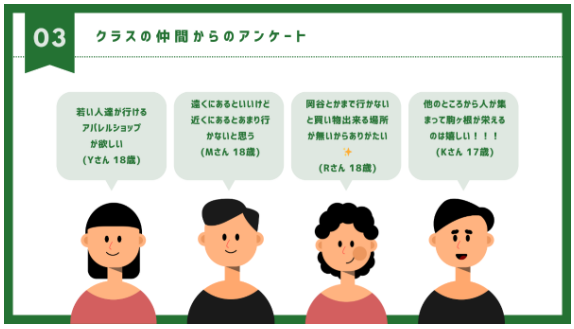
まず私達の目指すアウトレットの特徴を５つまとめました。１つ目が、バリアフリーが考えられている。２つ目が買い物をしながら自然を感じられる。３つ目が駅の近くにあって行きやすい。４つ目が子供連れでも楽しめる。５つ目が、若者も通いやすいアウトレットです。

初めにバリアフリーについて調べてみました。バリアフリーとは、高齢者や障がい者などさまざまな人が生活していく上で、不便や困りごとをなくすことを意味しています。アウトレットで活用するなら、棚と棚の間を広くしたり、お店の前にスロープを作ったり、使用している店舗が増えれば、車椅子でもベビーカーを押していても利用しやすくなると考えました。

次に街の中の自然の役割です。自然環境を守るメリット、自然を増やすことはストレスの軽減や気分の向上、精神的な幸福感の高まりなどに繋がります。また、血圧の低下、呼吸器系の健康促進にもつながります。自然をたくさん感じられるアウトレットにすることで、次のようなメリットがあります。１つ目が、免疫力の強化。２つ目が心の健康の促進。３つ目が感受性を育む。４つ目が安らぎや安心感を得ることができることです。このように自然環境が私達に与える良い影響は大きく、自然を感じられる環境で買い物をしたり、食事をすることは自然が感じられない場所よりも、私達に良い影響を与えてくれると考えました。

次は駒ヶ根に実際にアウトレットができたときのことを考えてみました。駒ヶ根市にアウトレットを作るメリットを５つ考えました。１つ目が、若者が駒ヶ根に集まるようになる。２つ目が、駒ヶ根駅前が栄え賑やかになる。３つ目が、移住者が増え人口が増える。４つ目が、便利になり住みやすくなる。５つ目がまちへ入るお金が増えるです。しかし、私達だけの意見では駄目だと思いクラスの人の意見も聞いてみました。Ｙさんからは若い人たちが行けるアパレルショップがほしい。Ｍさんは遠くにあるといいけど、近くにあるとあまり行かないと思う。Ｒさんは岡谷とかまで行かないと買い物できる場所がないからありがたい。Ｋさんは他のところから人が集まって、駒ヶ根が栄えるのは嬉しいという意見が出ました。私達だけでは出なかった案があり、さらに視野

を広げることができました。M さんが出してくれた意見からより地域に密着したアウトレットを私達なりに考えてみました。まずは古民家リノベーションアウトレットです。駒ヶ根市内にある古民家や廃工場などをリノベーション&移転して再利用しようと考えました。



次にアウトレットの場所です。大まかには今マップで出している駒ヶ根駅周辺と考えています。民家や営業しているお店はそのまま残し、空いている敷地や建物を有効活用して、駒ヶ根駅周辺の活性化を図ります。そして、より地域に密着したアウトレットにするために３つの項目に分けて考えてみました。１つ目は木を植えるです。買い物をしながら、視覚から四季を感じられるようにするため、木を植えます。２つ目は高校生との企画です。高校生とコラボして独自の商品を作れば、高校生と地域との交流も増え、さらに駒ヶ根が活性化していくはずです。３つ目が SDGs を目指すです。リサイクルやリユース、リメイクができる場所を作れば、地域のごみの削減にもなります。最後に私達が建てたい建物や店舗を実際に考えてみました。１つ目が古本屋です。ただ本屋さんにするのではなく、古本屋さんにすることで SDGs の貢献にもつながり、古民家の雰囲気がより引き立ちます。２つ目が古着屋さんです。最近の流行もあり、若い人たちが来てくれたり、着なくなった服をリユースするので SDGs にもつながります。３つ目が、自然を感じられるカフェです。初めに話した自然が私達にもたらす良い影響を生かした多くの人たちが活用できるバリアフリーを生かしたカフェにします。四つ目がフリースペースです。高校生や若い人たちが集中したいときに自由に利用できるようにするところです。BGM や照明なども工夫しようと考えています。以上で私達の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

小原茂幸議長　ありがとうございました。続いて、発表順位２番、Ｂ組６班の皆さん発表をお願いいたします。

３年Ｂ組６班　３年Ｂ組福澤浩太です。３年Ｂ組の三島颯斗です。３年Ｂ組気賀澤碧です。
３年Ｂ組西出愛莉です。３年Ｂ組矢澤愛香です。
これから６班の発表を始めます。

６班ではシャッター街の活性化について調べました。
まず、シャッター街について説明します。シャッター街とは、シャッターを下ろした状態が目立つ衰退した商店街や街並みを指す言葉です。

シャッター街の活性化について
六班

まずシャッター街とは…

シャッター街
商店や事務所が閉店・閉鎖し、シャッターを下ろした状態が目立つ、衰退した商店街や町並みを指す言葉である。また空洞化現象を表すキーワードの一つでもある。
１９８０年代後半から顕著化している。

次に、なぜシャッター街になってしまうのか。上げられる要因としては、人口減少。店舗経営者の高齢化による後継者不足。集客ができないモータリゼーション。これらが挙げられます。

なぜシャッター街になってしまうのか？

挙げられる要因
- **人口減少**
- **店舗経営者の高齢化による後継者不足**
- **集客ができない**
- **モータリゼーション（日常生活において自動車の利用が普及すること）**

次に、なぜシャッター街から抜け出すことができないのかです。商店街はあくまで民間事業者の集合体のため、自治体が主体的に動くことはできません。商店街は、住宅と一体化している。１階は店舗、２階が生活スペースな店舗が多いため、借りることが難しい。貸した場合には、生活を他人と共有する場面が出てきてしまう。家賃を高く設定しているところがあるため、借り手がつきにくい。これらが挙げられます。

なぜシャッター街から抜け出すことができないのか？

挙げられる要因

商店街はあくまで民間事業者の集合体なため自治体が主体的には動くことができない

商店街は住宅と一体化している（一階が店舗、二階が生活スペース）店舗が多いので借りることが難しい。貸した場合には生活を他人と共有する場面が出てきてしまう。

家賃を高く設定しているところもあるため借り手がつきにくい

一例として、駒ヶ根市駅前銀座通りを活性化するためにはどうすれば良いか考えました。そのために商店街の今ある店のリストアップ。今無いお店で需要があるお店を上げる。シャッター街の再構築に成功した例を調べる。自分たちが考えた計画の提案。リニア開通によって見込まれる駒ヶ根の人口推移調査。計画が及ぼす効果とそれによって生じる課題です。これが商店街の今あるお店です。

一例として駒ヶ根駅前、銀座通りを活性化するにはどうすればよいか考えた。
そのために…
- **商店街の今ある店のリストアップ**
- **今ない店で需要がある店を挙げる**
- **シャッター街の再構築に成功した例を調べる**
- **自分たちが考えた計画の提案**
- **リニア開通によって見込まれる駒ヶ根の人口推移調査**
- **計画が及ぼす効果とそれによって生じる課題**

商店街の今あるお店

・スーパー	・飲食店	・床屋
・八百屋	・靴屋	・電気屋
・ジム	・婦人服店	・薬屋
・土産屋	・肉屋	・花屋
・喫茶店	・居酒屋	

そして、今無いお店で需要があるものです。今の商店街の分析です。今あるお店で、生活用品は賄えるが足りないお店も多いです。駅から徒歩圏内で行くことができる娯楽施設が少ないように感じました。これらにはシャッター街になってしまった原因があてはまっています。そして、まずなぜ前のページで挙げたお店には需要があるのか。まず遊びに行くとき伊那・諏訪・松本まで行く学生が多いです。あと、飲食店が中央アルプス通り沿いに集中しているのと駒ヶ根駅からアルプス通りまで徒歩 15 分から 20 分、小町屋駅からアルプス通りまで 30 分から 40 分かかってしまうため、高齢者や小さいお子さんには厳しいかなと考えました。

今ないお店で需要があるもの
- **ゲームセンター**
- **ファミレス**
- **ミスタードーナツ**
- **ネットカフェ**
- **ラウンドワン**
- **コンビニ**

今の商店街の分析
- 今あるお店で生活用品は賄えるが足りないお店も多い
- 駅から徒歩圏内で行くことができる娯楽施設が少ない
  ⇧シャッター街になってしまった原因が当てはまっている

何故前のページで上げた店には需要があるのか
- 遊びに行くとき伊那・諏訪・松本まで行く学生が多い
- 飲食店が中央アルプス通り沿いに集中している
  駒ヶ根駅➡アルプス通り　徒歩１５～２０分
  小町屋駅➡アルプス通り　徒歩３０～４０分

次に、シャッター街の再構築に成功した例です。鳥取県鳥取市の若桜商店街では、空き店舗を半年で 10 万人が訪れるパン屋兼コミュニティスペースを作りました。愛知県豊橋市の大豊商店街では梅雨の時期に行う雨の日商店街という施策で再び活気を取り戻しました。10 年間借り手がつかなかったテナントを個人向け貸し倉庫に活用し、住宅街に近い立地を生かすことができ、収益物件に生まれ変わった。これら 3 つの例があります。現状・課題を調べてわかったことです。商店街の空き店舗問題は簡単に解決できることではないです。重要になってくることは立地を生かすこと。貸し手と借り手の条件のすり合わせを行ったりと方法を模索する工夫をしていくことだと考えました。

シャッター街の再構築に成功した例

鳥取県鳥取市の若桜街道商店街では、空き店舗を半年で１０万人が訪れるパン屋兼コミュニティスペースを作った。

愛知県豊橋市の大豊商店街では、梅雨の時期に行う雨の日商店街という施策で再び活気を取り戻した。

１０年間借り手がつかなかったテナントを個人向け貸倉庫に活用した。住宅街に近い立地を活かすことができ、収益物件に生まれ変わらせることができた。

現状・課題を調べてわかったこと

商店街の空き店舗問題は簡単に解決できることではない。重要となってくることは、立地を活かすこと、貸し手と借り手の条件すり合わせを行ったりと、方法を模索する工夫をしていくことである。

６班が提案するアイデアは 2034 計画です。この計画について説明していきます。2034 計画とは、リニア中央新幹線は元々2027 年の開業を目標としていましたが、静岡工区に許可が出ておらず、開業が 2034 年以降にずれ込む公算が大きいです。これが開通することにより、駒ヶ根市は人口増加が見込めると考えました。リニア建築予定の駅から駒ヶ根は、駒ヶ根市は高速・一般道で 50 分ほどとアクセスも良く、ベッドタウンや観光地になり発展していくと考えました。開業に合わせてテナントミックスサポートマネージャーを全国から公募し、任期・目標を定め、改革を行っていきながら、2034 年に合わせて企業の誘致を行っていくことがこの計画の内容です。テナントミックスとは、商業集積、商店街などの活性化の基本となるコンセプトを実現するための最適なテナントの組み合わせのことです。テナントミックスサポートマネージャーはリーダーシップを取り、各種イベントを活性化に向かって事業を推し進めていく人材のことです。

提案するアイデアは
「２０３４計画」

「２０３４計画」

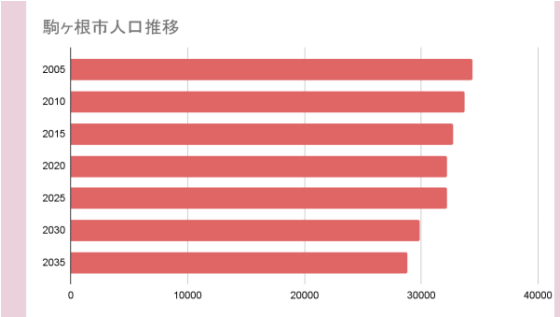
リニア中央新幹線はもともと２０２７年の開業を目標としていたが、課題が山積みとなっており開業は３４年以降にずれ込む公算が大きい。リニア中央新幹線が開通することで駒ヶ根市は人口増加が見込まれると思う。リニアの駅となっている飯田市からは高速道路、一般道で５０分ほどとアクセスも良く、ベットタウンや観光地になり発展していくと思う。開業するときに合わせて、テナントミックスサポートマネージャーを全国から公募し、任期、目標を定め改革を行っていきながら２０３４年に合わせ企業の誘致を行っていくことである。

テナントミックスサポートマネージャーとは？

テナントミックスとは商業集積（商店街など）活性化の基本となるコンセプトを実現するための最適なテナント（業種業態）の組み合わせのこと。テナントミックスサポートマネージャーは、リーダーシップを取り、各種イベントを活性化に向かって事業を推し進めていく人材のことである。

次に、駒ヶ根市の人口推移です。人口推移を調べ、グラフを作成しました。グラフからの分析です。グラフを見てわかるように、駒ヶ根市は人口が年々減少している傾向にあります。この先の予測では、リ

ニアが開通する 2034 年には３万人を切ってしまっています。ですが、６班は駒ヶ根市の人口が増えていくと考えました。一例ですが、山梨県ではリニアの開業により山梨県駅を起点とした 60 分圏の人口は、現状の 160 万人から 3,323 万人と大幅な拡大が期待されています。この山梨県の一例をもとに考えると、駒ヶ根市はリニア駅建設予定地から一般道 50 分、高速道 50 分、電車 42 分といずれの交通手段でも 60 分圏内に入っているため、大幅な人口増加が見込まれると推察しました。こちらが 2034 計画に必要な予算です。長野県にはちゃんとした給付体制があって計画を進めやすいと思いました。次にこの計画のデメリットです。予算を見てわかるとおり、企業誘致には投資に伴う経済的なリスクがあります。その企業が成功しなかった場合、税金が無駄になってしまうことがデメリットだと考えました。



分析

グラフを見てわかるように駒ヶ根市は人口が年々減少している。この先の予測では２０３０年には３００００人を下回りリニア開通予定から１年後の２０３５年には２８８１６人となってしまっている。

山梨県ではリニア開業により、山梨県駅を起点とした６０分圏の人口は現状の１６０万人から３３２３万人と大幅な拡大が期待されている。

この山梨県の一例をもとに考えると駒ヶ根市はリニア駅建設予定地から車で　一般道５０分　高速道５０分　電車４２分といずれの交通手段でも６０分圏内に入っているため大幅な人口増加が見込まれると推察した。

２０３４計画に必要な予算

テナントミックスマネージャー委託料	月額90万円
企業誘致推進委員会設置	約670万円
立地推進	約420万円
企業誘致班活動費	約1800万円
県外企業の県内視察支援制度	約100万円

長野県はちゃんとした給付体制がある！

この計画のデメリット

企業誘致には投資に伴う経済的なリスクが有る

↓

その企業が成功しなかった場合税金が無駄になってしまう

計画が及ぼす効果とそれによって生じる課題です。メリットは人口増加、人口増加による働き手不足の解消、地域経済の活性化、地域経済の活性化により市のお金が潤い、さまざまな事業を推進していくことができます。課題は、駒ヶ根市は道が狭いため、人口増加すると渋滞や事故などが増えてしまう可能性があります。公共交通機関が利用者不足により少なくなっているため、移動手段が少ないです。まとめです。この計画を成功させることにより、人口増加、地域経済の活性化などが期待でき、駒ヶ根市が抱えるさまざまな問題の解決に繋がっていくと考えました。関わる人全員が責任を持ち、それぞれが目標を少しずつこなしていくことにより、計画の成功、駒ヶ根市がより良いまちに発展していくと考えました。これで６班の発表を終わります。

計画が及ぼす効果（メリット）とそれによって生じる課題

効果（メリット）	課題
・人口増加	・駒ヶ根市は道が狭いため人口増加すると渋滞や事故などが増えてしまう可能性がある。
・人口増加による働き手不足の解　消	・公共交通機関が利用者不足により少なくなっているため移動手段が少ない
・地域経済の活性化	
・地域経済の活性化により市のお　金が潤い様々な事業を推進して　いくことができる	

まとめ

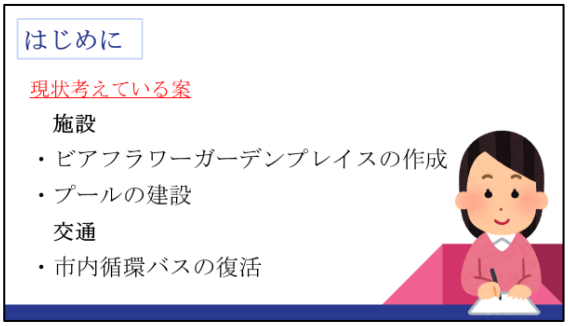
この計画を成功させることにより、人口増加、地域経済の活性化などが期待でき駒ヶ根市が抱える様々な課題の解決につながっていくと思う。

関わる人全員が責任を持ちそれぞれが目標を少しずつこなしていくことにより計画の成功、駒ヶ根市がより良い街に発展していくと思う。

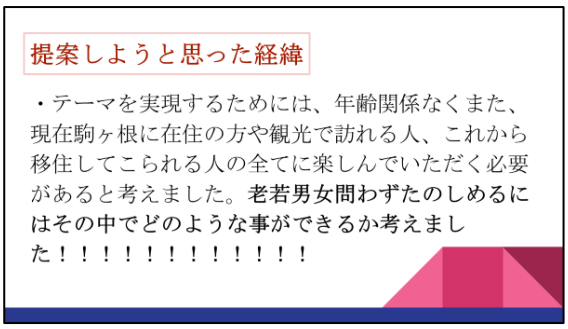
小原茂幸議長　ありがとうございました。続いて、発表順位３番、Ｃ組５班の皆さん発表をお願いいたします。

３年Ｃ組５班　３年Ｃ組中村成那です。３年Ｃ組唐澤昇汰です。３年Ｃ組福島琉生です。３年Ｃ組宮下昂大です。３年 Ｃ組飯塚美那です。３年Ｃ組小松菜月です。これから５班の発表を始めます。お願いします。

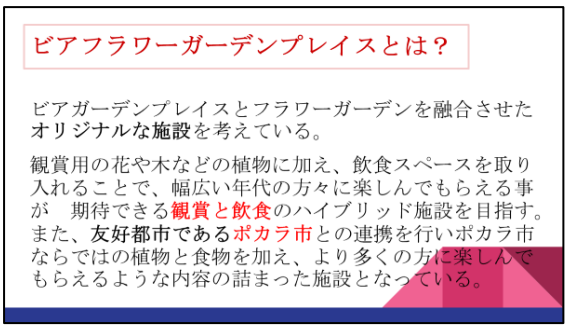
５班は、誰もが楽しめる街作り 100 年先の明るい未来をテーマに探求してきました。私達は、大きく分けて施設と交通の２つの案を考えました。



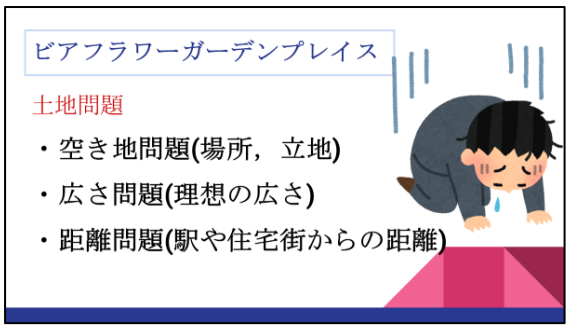
テーマを実現するために、年齢関係なく、また、現在駒ヶ根に在住の方や観光で訪れる人、これから移住して来られる人の全てに楽しんでいただく必要があると考えました。老若男女問わず楽しめるには、その中でどのようなことができるかを考えました。

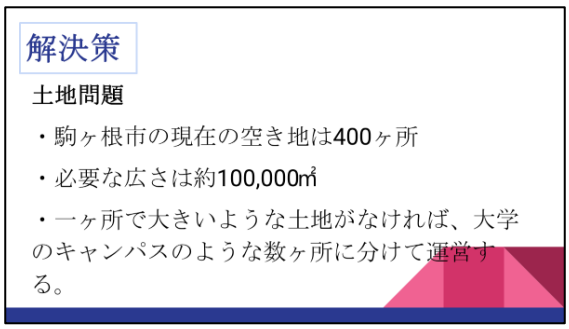


まずはビアフラワーガーデンプレイスとは何かを説明します。ビアフラワーガーデンプレイスとは、ビアガーデンプレイスとフラワーガーデンを融合させたオリジナルな施設で、鑑賞と飲食のハイブリッド施設です。また、友好都市であるポカラ市との連携を行い、ポカラ市ならではの植物と食物を加え、より多くの方に楽しんでもらえるような内容の詰まった施設となっています。イメージとしてはこんな感じです。

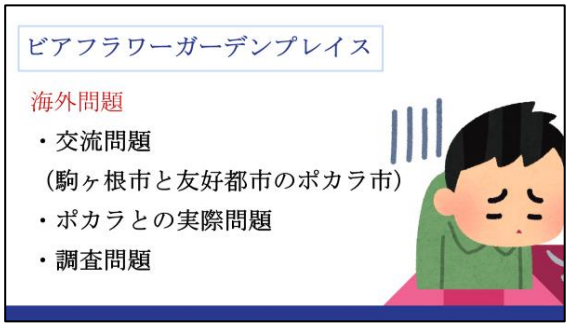


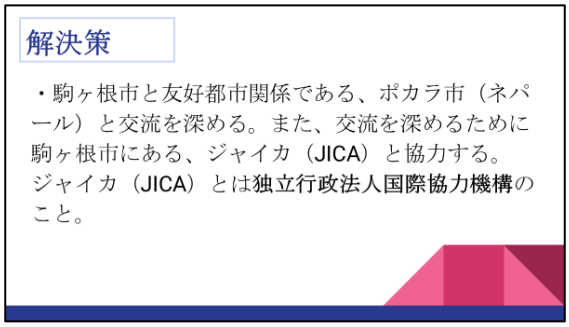
ビアフラワーガーデンプレイスを作るにあたって、大きく３つの問題が生まれます。まずは、土地問題で、空き地がどこにあるのか、理想の広さが実現できるのか、距離の問題があります。解決策は、駒ヶ根市の現在の空き地が 400 ヶ所ということを調べてわかって、自分たちが考えている必要な広さは約 10 万㎡となっています。１ヶ所で大きいような土地がなければ、大学のキャンパスのような数ヶ所に分けて運営することも考えています。



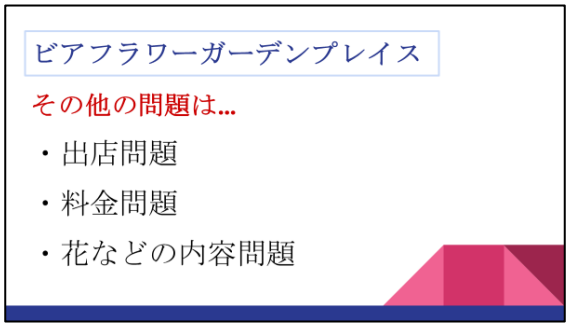


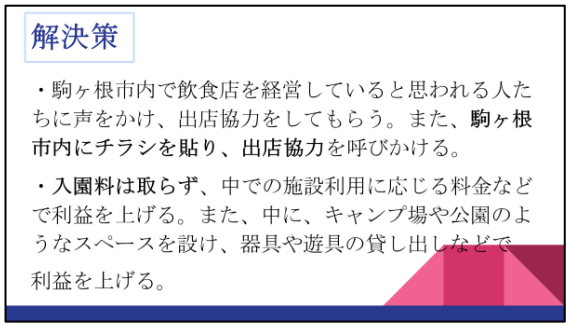
次に、海外問題で、交流問題等ポカラ市との実際問題や調査問題があります。解決策は、駒ヶ根市と友好都市関係であるポカラ市と交流を深めるために、駒ヶ根市にある JICA と協力し、ポカラ市をもっと多く知ってもらおうと考えています。



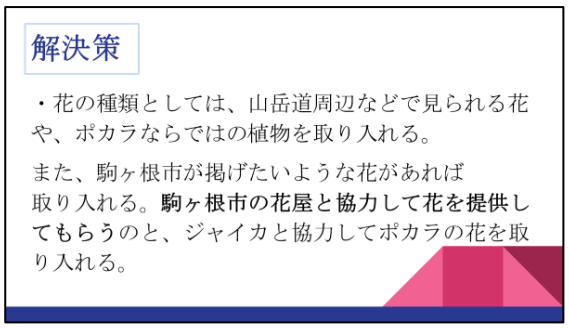


その他の問題が出店問題と料金問題、花などの内容問題があって、実際に出店するとしたら店を出してくれる人はいるのかだったり、料金はどうするのか、中には何が必要なのか、何があれば多くの人を集められるのかを考えました。解決策は、駒ヶ根市内で飲食店を経営していると思われる人たちに声をかけて、駒ヶ根市の魅力を伝えるとともに出店協力をしてもらいます。また、駒ヶ根市内にチラシを配って出店協力を呼びかけることも考えています。料金は、入園料は取らずに、中での施設利用に応じる器具や遊具の貸し出しなどで利益を上げることを考えています。また、花の種類は駒ヶ根山岳道周辺などで見られる花やポカラ市ならではの植物を取り入れ、駒ヶ根市内の花屋と協力して花を提供して

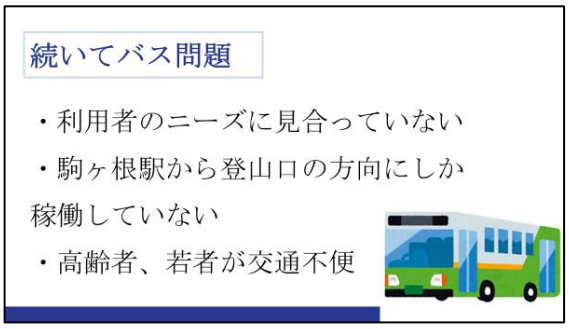


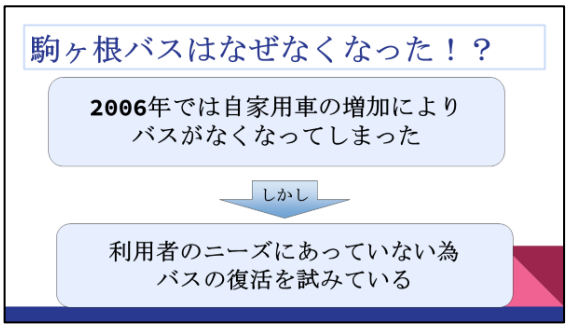


もらうのと、JICA と協力してポカラ市の花を取り入れることを考えています。

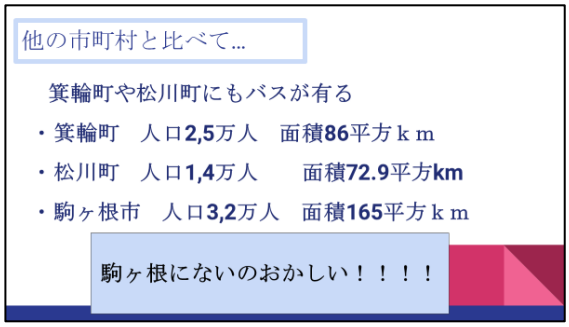


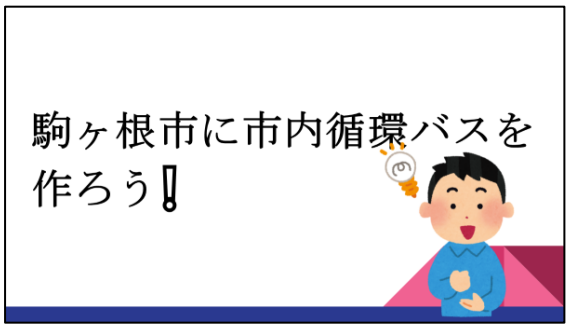
続いてはバス問題です。バス問題をやるにあたって、利用者のニーズに見合っていないという点、現在は駒ヶ根駅から登山口の方向にしか稼働していない。そのため高齢者・若者の移動手段が不足しているという点が挙げられます。2006 年までは市内循環バスが通っていましたが、2006 年以降は自家用車の増加により駒ヶ根駅から登山口の方向にしか運行していません。ですが、現在は利用者のニーズに合っていないため、バスの復活を試みています。

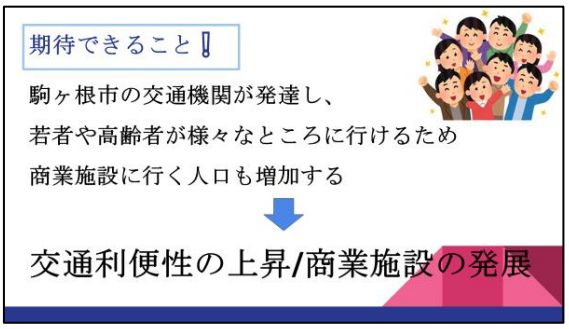




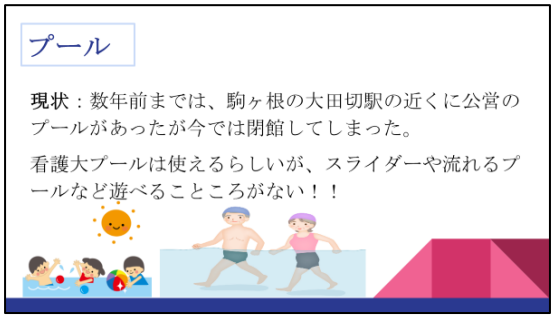
他の市町村とも比べて、箕輪町や松川町にもバスがありますが、箕輪町では人口 2.5 万人面積 86 ㎢、松川町は人口 1.4 万人面積 72.9 ㎢で、駒ヶ根市は人口 3.2 万人面積 165 ㎢と、どちらも町よりも人口や面積が広いのに、駒ヶ根市にないのはおかしいと考えています。そのため、駒ヶ根市に市内循環バスを作ろうと考えています。期待できることは、駒ヶ根市の交通機関が発達し、若者や高齢者がいるさまざまなところに行けるため、商業施設に行く人口も増加します。それらのおかげで、交通利便性の上昇や商業施設の発展を期待できると考えています。

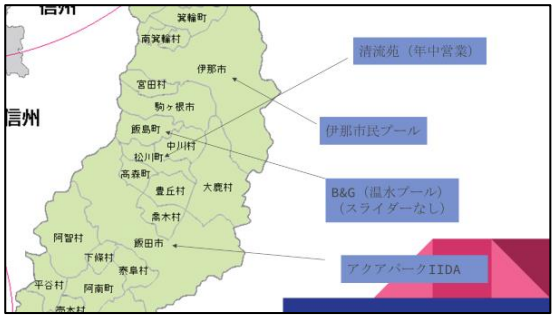






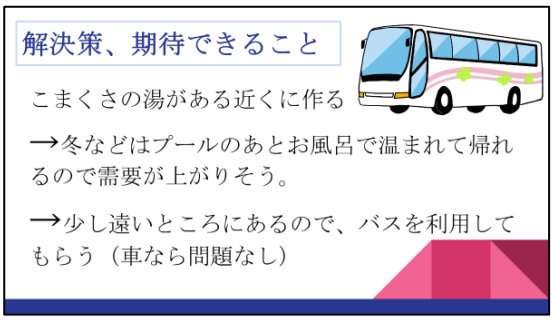
続いて、プールです。プールの現状は、数年前まで駒ヶ根の大田切駅の近くに公営の駒ヶ根市営プールがあったんですけど、今は閉館してやっていません。看護大にあるプールが使えるらしいんですけど、あまり知られていないし、スライダーや流れるプールなどの面白い遊べるようなところがないというのが現状です。こちらが駒ヶ根周辺にあるプールなんですけど、スライダーがなかったり、夏しかやってなかったり、清流苑は年中やってるらしいですけど、こんな感じで年中やっていて、遊べるようなプールがないので、もし駒ヶ根にできたら周りから遊ぶ人が来たりして、経済効果が出るかなと思いました。





課題と問題点です。問題は、施設の維持費や水質の維持費です。他にも大きめの空き地が必要だったり、子供やおばあちゃん以外の利用者は来るのかなどの問題があります。理想はこんな感じの豪華のプールです。

解決策と期待できることとして、こまくさの湯の近くに作ることで、冬などはプールの後、温まって帰るため需要が上がりそうです。また少し遠いところにあるので、バスを利用してもらうとバスの利用者も増えるため、私達の企画が良くなると思います。最後にまとめです。こんな素敵な駒ヶ根に必要なものは交通を便利にするバス、そして、プールやビアフラワーガーデンプレイスなどのように、娯楽施設を作ることにより、利用者も増え、また、バスのお金も手に入ると思っています。これで５班の発表を終わります。

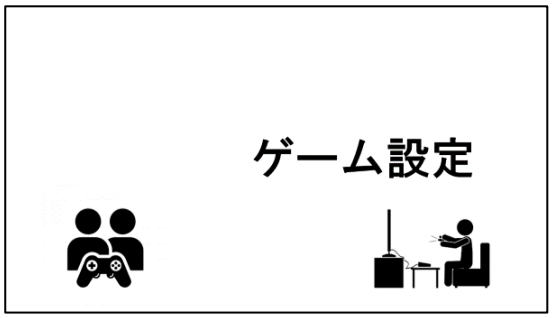


小原茂幸議長　ありがとうございました。続いて、発表順位４番、Ｄ組１班の皆さん発表をお願いいたします。

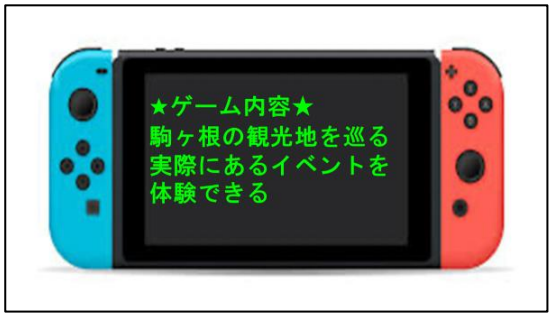
３年Ｄ組１班　３年Ｄ組藤沢優太です。３年Ｄ組池上慶志です。３年Ｄ組唐澤圭都です。３年Ｄ組小林美結です。３年Ｄ組伊藤優楽です。私達が市議会の皆さんに発表するテーマは、駒ヶ根市を舞台にしたゲームを作ろうというものです。

なぜこのテーマにしたかというと、現在の駒ヶ根は素晴らしい景色・魅力を持っているのに、それを伝える機会があまり少ないように思いました。それを改善したいというところからスタートした結果、このテーマになりました。ゲームは、今多くの世代の人に触れるもので、特に魅力を伝えたい若い世代、私達のそばにあるものでゲームという形で魅力の発信を行っていきたいと考えたからです。この後の発表では、私達がどういったゲームをイメージしているのかを伝えるため、具体的なゲーム内容、そして、実現するための方法などを話していきます。

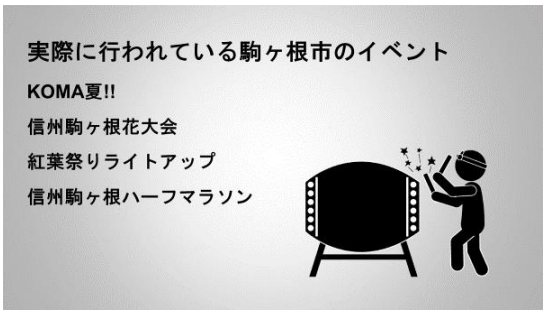
最初にゲーム設定です。まず、どういった人物を操作するのかというところ、つまり主人公についてです。主人公については、小学生や移住してきた人が良いかなと考えています。駒ヶ根の魅力・自然を一番に感じられるのはどういった人なのか考えて決めました。



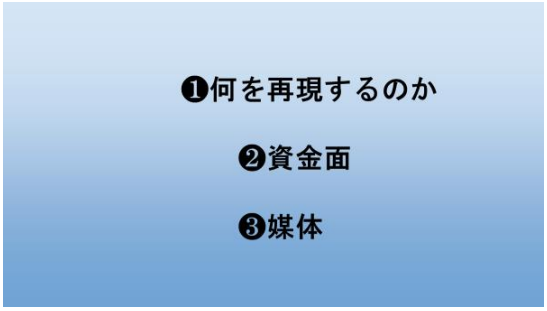
そして、次にゲーム内容。私達は特にゲームで何を伝えたいのか、それは魅力。そこから駒ヶ根の観光スポットを巡り、駒ヶ根市で作られてきた地域に根付いたイベントを実際に体験、知るができる。そんなことができれば、魅力を伝えられる良いゲームになると考えました。



例えば、このような祭り。KOMA 夏!!、紅葉まつりライトアップなどのイベントが駒ヶ根にはあります。こういった実際に現地に行かなければ味わえない楽しさ、それを多くの人に伝えることがゲームにはできます。他にもつながりのある人たちに音楽を提供してもらうことで、音という情報から駒ヶ根を多くの人に伝えることも同時に行うことがゲームにはできます。耳に残った音から思い出すように駒ヶ根へ。それができたら理想的だと考えています。

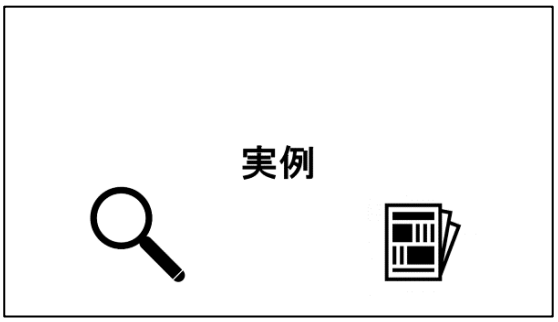


私達が考えているゲームのイメージは伝わったでしょうか。しかし、実際にこのようなゲームを作るとなると多くの課題、そして魅力的なものにするために必要なことがあると思います。私達は話し合いからそれをこの３つに大きく分けました。何を再現するのか、資金面、媒体の３つです。この後の発表については、それを具体的に解決するためにはどうしたら良いかについて考えたのでそこを発表していきます。



まずは、何を再現するのか、先ほどお伝えしたゲームのイメージから、さらにどういったところを具体的に再現していくのか、それを僕たちは駒ヶ根の自然・観光スポットを再現していくべきだと考えました。例えば、光前寺。実際にある早太郎おみくじが引けたり、馬見塚・大沼湖・駒ヶ池など、駒ヶ根を代表する風景たちを再現することが良いゲームにつながると考えました。普段、歴史に触れたいや絶景を見たときの感動を味わいたいなどの気持ちがあったとしても、それを叶えるには遠出をしなきゃいけない、そんなところに寄り添い助けることで、多くの人に魅力を伝えるゲームになると思います。そのため、観光スポットの再現をするべきだと考えています。現在だとアメリカの会社が提供する Unreal Engine というゲーム開発ソフトウェアで、一部の都市モデルが提供されており、そういった面も考えると、実際に作成の際に観光スポットというのは再現しやすいものだと考えています。

次に資金面の解決についてです。ゲーム作るといってもさまざまな問題があります。それの一番の課題は資金面だと考えています。ゲームを作るにはスマホアプリでできるソーシャルゲームでも数百から数千万、ものによっては億のお金がかかったりするものもあります。それを解決するために、私達が一番に提案するのがクラウドファンディングについてです。クラウドファンディングとは、インターネットを介して不特定多数の人から少額ずつお金を集め、資金を調達する方法です。実例としてはこのようなものがあります。ショートムービーを作りたいという私達と同じような地域発信を目標にしたものでは 164 万円を集めました。他にも、飛騨牛を美味しく食べてほしいという思いからのクラウドファンディングでは、約 1 億集めることができています。このように莫大なお金を集めるのは不可能ではありません。返礼品をどうするのかや、やっぱり集めるのは難しいなどの考えもあるかもしれませんが不可能ではないのです。他にも、この課題解決には他の方法、例えば、長野のゲーム会社と協力するなど、さまざまな方法で付き合っていく必要があると考えています。



そして、３つ目媒体についてです。現在、スマートフォン、パソコン、Switch、プレステなどさまざまなゲーム媒体が存在していますが、その中でどういったものでゲームをできるようにするのか、それを私達はスマホだと考えました。今ではどんな人でも持っているもので、何より魅力を伝えたい若い世代の人が必ずと言っていいほど持っているものだからです。そして、ゲームを始めるにあたっての手軽さ、それが多くの人に駒ヶ根の良さを伝えるために必要なことだと考えています。他にも資金面などのつながりから、個人制作で大阪の町並みが再現できたりする VR なども考えることができると考えています。実際の再現例として、スマホアプリでの地域発信にはこのようなものがあります。このアプリではその地域の魅力などの情報を RPG で遊びながら知ることができます。もし、駒ヶ根のゲームを作るとしたら、こういった形での地域発信ゲームも考えられると思います。しかし、ゲームを実際に作ろうとすると、先ほどの課題を解決しても実際にうまくいかないかもしれません。現実を見ると、できたとしても小さい形などうまくいかないところもあると思います。でも、駒ヶ根の魅力を多くの人に伝えるため、私達は駒ヶ根のゲーム作りを提案します。世界にはゴートシミュレーションというゲームが存在します。このゲームは町おこしのようにスウェーデンのある都市がゲーム開発をして、世界に大ヒットしました。そこから有名なゲーム会社として、有名なゲームを作る場所として、都市が発展していきました。

このようにゲームというのは今の時代、多くのものを成長させる力があると考えています。チーム作りを通して、誰もが実際に気軽に駒ヶ根のことを知れる、そして、それが駒ヶ根に還元されるようになれば、地域発信として最高の形だと考えています。それが、僕たちが駒ヶ根のゲーム作りを提案する理由です。最後までご清聴ありがとうございました。

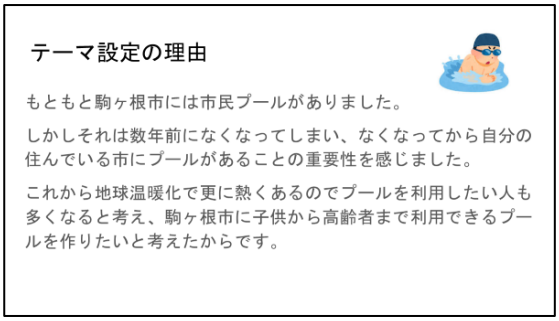
気軽に駒ヶ根を知れる！

ご清聴ありがとうございました。

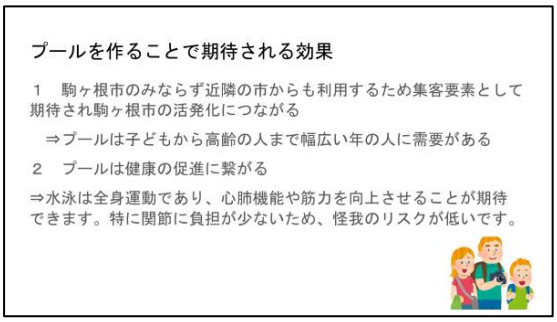
小原茂幸議長　ありがとうございました。続いて、発表順位５番、Ｅ組４班の皆さん発表をお願いいたします。

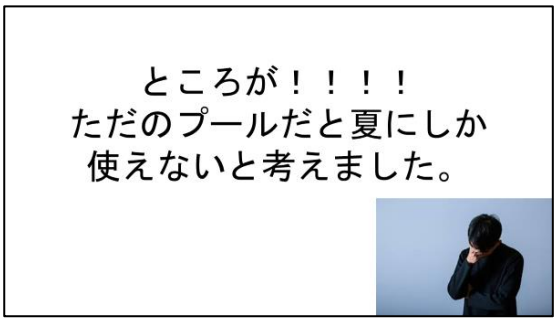
３年Ｅ組４班　３年Ｅ組伊藤有芯です。３年Ｅ組木下翔です。３年Ｅ組後藤洸瑛です。３年Ｅ組橋爪奏太です。
３年Ｅ組黒澤汰聞です。私達４班は、さあ作ろうプール復活大作戦というテーマを立てました。

はじめにテーマ設定の理由です。元々駒ヶ根市には市民プールがありました。しかし、それは数年前になくなってしまい、なくなってから自分の住んでいる市にプールがあることの重要性を感じました。これから地球温暖化でさらに暑くなるので、プールを利用したい人も多くなると考え、駒ヶ根市に子供から高齢者まで利用できるプールを作りたいと考えたからです。

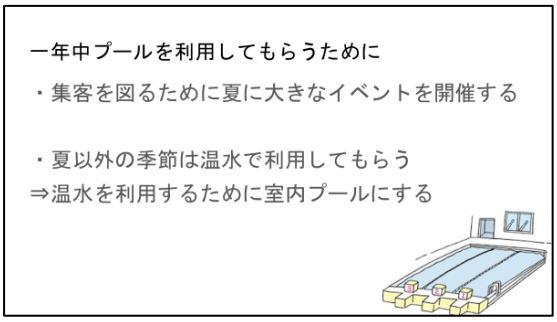


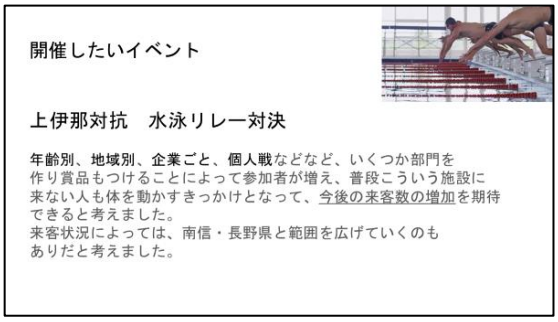
プールを作ることで期待される効果です。１つ目は駒ヶ根市のみならず、近隣の市からも利用するため集客要素として期待され、駒ヶ根市の活発化につながることです。プールは、子供から高齢者の人まで幅広い歳の人に需要があります。２つ目は、プールは健康の促進につながることです。水泳は全身運動であり、心肺機能や筋力を向上させることが期待できます。特に関節に負担が少ないためけがのリスクが低いです。ところが、ただのプールだと夏にしか使うことができないと考えました。



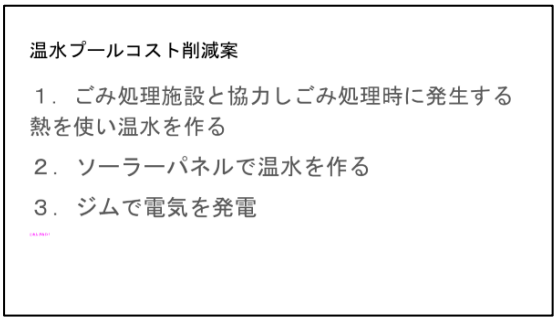


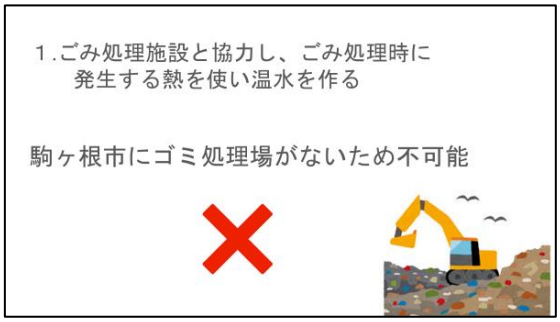
１年中プールを利用してもらうため集客を図るために、夏に大きなイベントを開催する。夏以外の季節は温水で利用してもらう。温水を利用するために室内プールにする。開催したいイベントは上伊那対抗水泳対決で、年齢別・地域別・企業毎・個人戦などいくつかの部門を作り、賞品も付けることによって参加者が増え、普段こういう施設に来ない人も体を動かすきっかけとなって、今後の来客数の増加を期待できると考えました。来客の状況によっては、南信・長野県と範囲を広げていくのもありだと思いました。

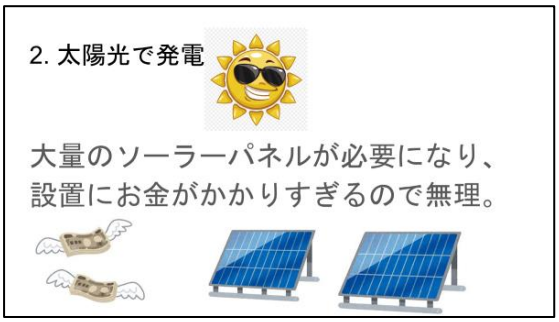


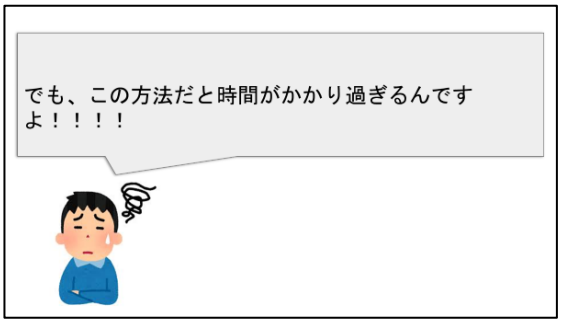


温水プールコスト削減案は３つあって、１つ目がごみ処理施設と協力し、ごみ処理時に発生する熱を使い温水を作る。２つ目がソーラーパネルで温水を作る。３つ目がジムの電気で発電です。まず、最初にごみ処理施設と協力し、ごみ処理時に発生する熱を使い温水を作ることを考えました。しかし、駒ヶ根市にはごみ処理場がないため不可能となりました。２つ目には、太陽光発電です。大量のソーラーパネルが必要になり、設置にお金がかかるので不可能となりました。３つ目はジムで発電です。仮に自転車１台で 50m プールを温めると何時間かかると思いますか。正解は３万時間です。これは約 1,250 日に相当します。でも、この方法だと時間がかかりすぎるため違う案を考えてみました。

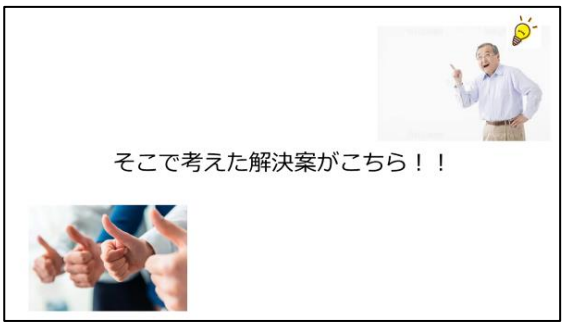


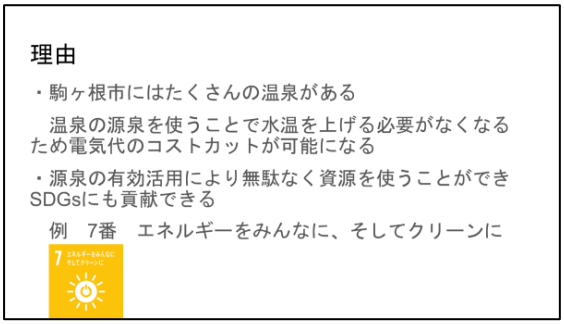






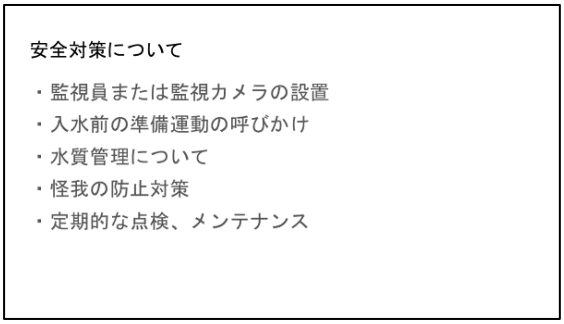
そこで考えた案は、駒ヶ根市の源泉を使うことです。理由は、駒ヶ根市にはたくさんの温泉があり、温泉の源泉を使うことで水温を上げる必要がなくなるため、電気代のコストカットが可能になる。源泉の有効活用により、無駄なく資源を使うことができ、SDGs にもつながると考えたからです。

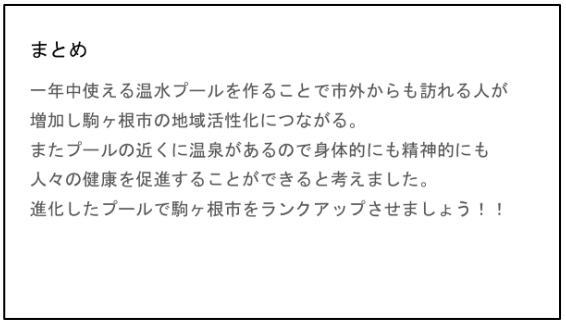




そこで、駒ヶ根インターから車で約５分のところにあるこまくさの湯の源泉を使おうと考えました。こまくさの湯の源泉温度は 30.8 度で温水プールに適しています。駒ヶ根のさらなる発展に向けて、こまく

さの湯やスキー場も近くにあり、関連施設にもメリットがあるため、お互いにウィンウィンな関係を築いていき、地域全体の経済成長が見込まれます。また、プールを作るとなると安全対策が重要になると考えました。監視員または監視カメラの設置、入水前の準備運動の呼びかけ、水質管理、怪我の防止対策、定期的な点検、メンテナンスを深く考えることが大事だと思います。まとめです。１年中使える温水プールを作ることで、市外からも訪れる人が増加し、駒ヶ根市の地域活性化につながり、プールの近くに温泉があるので、身体的にも精神的にも人々の健康を促進することができると考えました。進化したプールで駒ヶ根市をランクアップさせましょう。これで発表を終わります。





小原茂幸議長　ありがとうございました。以上で各クラス代表５グループの発表が終了いたしました。今一度発表された皆さんに盛大な拍手をお願いいたします。続いて、各クラスを担当した議員より講評をいただきたいと思います。担当議員は前方の席へ移動をお願いします。

小原茂幸議長　それではＡ組より順次お願いいたします。

中島和彦議員　皆さんこんにちは。Ａ組を担当させていただきました中島でございます。本日は素晴らしいアイデア、本当にありがとうございました。今回、生徒さんたちが、探究の時間に市内で問題視されているさまざまな課題を拾い上げていただき、Ａ組は７班に分かれて、ワークショップ形式でリーダーさんを中心にこんなことをしたら駒ヶ根市が盛り上がるというテーマを決めての流れでございました。今回、Ａ組は、「駒ヶ根の自然を活かしたアウトレット」というテーマで発表いただきました。Ａ組はどのチームも市の課題を分析していただき、いろいろな提案をしていただきました。その中で今回、駒ヶ根市の自然を活用したアウトレットを生徒さんの提案で、Ａ組の総意で代表チームとして発表して

いただきました。本当に生徒さんが自主的・主体的に学んで考えていただきました。大人もなかなか考えが及ばないブレークスルー的な高校生らしい発想での内容となりました。今回、駒ヶ根の特性を生かした、また、健康に配慮し、駒ヶ根市周辺の空き店舗を活用して、アウトレットブースに組み込むというかなり実現可能な提案となっております。あるものを活用するということで、体験型複合施設くらすわの森も養命酒でオープンをしております。コラボなどできれば魅力がさらに深まる提案であると思いました。本当に素晴らしい提案、ありがとうございました。

氣賀澤葉子議員　私はＢ組の皆さんと一緒にやってまいりました氣賀澤葉子と申します。私は、Ｂ組の方をずっと見てきました。初めは雑談でみんながざわざわと話している。でもそのうち、ちょっとこれ調べてみようよとスマホで調べ始めたり、そして、まとまるかな、大丈夫かなと思って心配した時期もあったんですけれども、11 月 21 日の発表がすごく見事でびっくりしました。皆さんってこんなに力があるんだなって思いました。そしてそのときに、投票で選ばれた皆さんが今日シャッター街の活性化ということで来てくださいました。本当に楽しく見させていただきました。今日はＢ組の担当だったんですけれども、皆さんのいろいろな発表を聴いていてすごく触発されちゃったので、少しその話をしたいと思います。さまざまなテーマがあって、私達議員も課題として考えているのは同じだなって思ったのは、人口減少問題、公共交通、そして、人材の育成、それから、娯楽施設の足りないこと、そういうのはもう同じ課題だなと思ったんですけれども、その斬新で新鮮なアイデアにちょっと感激しました。もう一つ、今私はこんな紙でメモしていますけど、皆さんはスマホを使って発表されるので新しい世代だなと思いながら聞いていました。そして、先ほど中島議員からもありましたが、自然を感じられるアウトレット。なんかアウトレットっていうとすごい商業施設という感じだったんだけど、全然違っていて、SDGs とか古民家とか古着屋とか、そういう素晴らしい視点がありました。それから、Ｂ組は先ほど言ったように 2034 年計画ですよね。この人材が大事だというテナントミックスサポートマネージャーの提案っていうのに私は今日もこの間もそうだったんですけど感激しました。それからＣ組のビアフラワーガーデンプレイス。国際的だったり、JICA だったり駒ヶ根の利点というかそういうところをしっかり捉えてらっしゃるんだなって思いました。それから、ゲームを作る。これも本当に面白い。私は、ゲームはあまり得意じゃないんですけど、こういうのをやっている自治体もあって、私達は会派で視察に行ってきましたので、全然夢じゃないし、やはりその地域を知らせる、PR する、すごいなと思いました。それから市民プールに温水を使って健康促進。駒ヶ根の源泉が使えるというのは、本当に駒ヶ根の特徴を生かした素晴らしいアイデアありがとうございました。本当に今日は楽しく聞かせていただきました。これを私達がちゃんと受け止めますのでよろしくお願いいたします。以上です。

宮下稔副議長　私はＣ組を担当しました副議長をしています宮下稔です。今までに 4 回議員が赤穂高校にお邪魔をさせていただいて一緒に積み上げてきたんだというふうに思いますが、ちょっと公務があって、4 回のうち最初の 2 回は行きましたが、その後の 2 回は行っていなくて、今日の発表を聞かせていただいてＣ組 5 班の皆さんすごく立派だったなというふうに思いました。2 回行けなかったことをこの

場ではご容赦いただきたい、謝りたいというふうに思います。100年先は明るい未来にしたい、楽しいまちにしたい、そういう思いが伝わってくるプレゼンだったように思います。若い高校生の皆さんが、駒ヶ根市にあったらいいなというふうに思うこと、その例を的確にというか、率直に伝えていただいて、今前の2人も言いましたけれども、議員としてあるいは議会としてそういったことが一歩でも前に進むようにこれから頑張っていかないといけないかなというふうに思いました。私の高校生のときにはこんな社会問題というか地域の課題について考えるなどいうことは全然なかったんです。そんな機会はなくて、前も言いましたけれども、私サッカー部だったのでサッカーのことと、ちょっと勉強のことと、彼女のことを考えている時間が一番多かったかなと思っていまして、今回、駒ヶ根市議会から皆さんに高校生未来会議という呼びかけをさせていただいたら、こんなに真面目に取り組んでいただいて、議会用語というか大人の用語で言うと真摯な姿勢で取り組んでいただいて大変ありがとうございます、という言い方になりますが、本当にそんな感じで感動しました。ビアフラワーガーデンプレイス、駒ヶ根市にはご存知のとおり、駒ヶ根ファームスの地ビールレストランがあります。南信州の地ビールというのは長野県の地ビール第1号であります。駒ヶ根市にとって大きな資源だなと思っていて、花を使ってもうちょっと賑やかなところにする、何かその可能性のある提案じゃないかなというふうにも感じました。他のグループの皆さんもいろいろ提案をいただきました。一方で、サービスを受ける側の思いっていうのがなかなか多かったように思いますが、サービスを提供する側の課題、いくつか分析もされておりました。もうちょっとその辺を分析されて課題を乗り越えていくことを言ってくれると実現可能な提案になっていくのかなというふうに思いました。いずれにしても若い次の世代の皆さんの夢、それを実現していく、そういうことに挑戦していくっていう気概が駒ヶ根市を元気にしてくれるのかなというふうに思いました。その思いに出会えたので、今回の取り組みは非常に良かったかなというふうに思っています。私ももう少し気持ちを若くして一緒に頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願いします。大変ありがとうございました。

押田慶一議員　発表された皆さんお疲れ様でした。私はD組を担当しました押田慶一といいます。素晴らしい発表で、ずっと9月末から見まして、このゲームを作ろうというゲームに着目した点がすごく素晴らしいなと、ゲームとこの観光を紹介することはすごく親和性がある、要は相性が良いというふうに感じました。やっている過程で実に楽しくやっていましたので、私達もそんなに口を挟むことはないのかなというふうに思いました。発表の中でですね、主人公が小学生か都会に疲れて移住した人ということで、実は私は7年前に移住しまして、私も疲れて移住したのかなと一瞬思い出しました。ゲームの内容として、実際に観光地やいろいろなイベントであげていただいて、それとロールプレイングゲームですから、進みながらやっていくっていうのは非常に観光に向いてるのかなと。課題もしっかり捉えていただいて、やはり一番大きいのは、ゲームを作るときに、先ほども発表ありましたけどもお金がかかるということがあったりとか、ゲーム作りもいろいろな機材であったりとかテクニックといった面もあると思うんですけれども、私は聴いていて非常に現実性が高いのかなと。越えるべきハードルは高いですけれども、これをお金の面であったりとか、クリエイターの方など誰かにつないでいくと、なんかこれ

いけちゃうのかなというふうにも思いました。ここで終わりにするのではなくこの先も粘って、これをどうするかということも進めていくのことも楽しいかなと思いました。もしできるならこれからも継続して、私達も協力できることがありましたらしたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。ありがとうございました。

竹村誉議員　改めましてこんにちは。E 組を担当しました竹村誉です。E 組の皆さんにも大変申し訳なかったですが、担当した 3 人がそれぞれ公務で入れ代わり立ち代わりとなって大変迷惑をかけましたけど、E 組の講評をさせていただきたいと思います。E 組のテーマですが、プールの復活作戦ということで、地球温暖化によって今後求められる利用価値、そこに焦点を当てて、集客とか健康増進につなげる提案だったと思います。また、それからさらに年間利用できる温泉に着目して、温水プールを活用する、そういったさまざまなユニークな提案がされて、その中には提案する段階においては、エネルギーをどうやって創出するのかということをいろいろ試行錯誤されました。その中に、特に自転車によって人力でエネルギーを創出するという大変ユニークな発想もありましたけれど、楽しかったと思います。そして、行き着いた先が、地域資源である早太郎温泉の源泉を活用するということで、地産地消、それから SDGs にもつながるという提案でした。今回の提案は特にプールがほしいからというだけの提案ではなく、経済的にも解決策を試行錯誤して、そういうことが盛り込まれた本当に良い提案だと思います。温泉の地域の資源を生かしていくということが盛り込まれるということは、地域のことと一緒になって考えてくれているということなので、本当にありがたいと思いました。議員からもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

小原茂幸議長　5 人の議員からの講評が終わりました。ありがとうございました。5 人の議員の皆様に僭越ではありますが、拍手をお願いしたいと思います。議長の役目としては総合評価ということですが、今 5 人の議員の皆さんがほぼ言い尽くしてくださいましたので、簡単ではありますけれども、今日は素晴らしい提案、それから、意見をお聞かせいただきまして本当にありがとうございました。高校生らしい、あるいは高校生らしからぬ発表がありました。それからアイデアの中でも、まちなかアウトレットであるとか、テナントミックスサポートマネージャー、あるいはビアフラワーガーデンプレイス、スマホのゲームソフト、ゴートシミュレーターですとか、それから、通年の市民プール、さまざまな提案があり、それぞれ実態調査をして解決策を考え、そして、メリット・デメリットあるいは資金面、そういった部分まで提案をしていただいて、本当に参考になりました。この後、市議会としても市長・執行部の方へ伝えるものは伝えていき、実現に向けてできるものは 1 歩でも 2 歩でも続けたいと思います。ただ皆さんの夢は本当に壮大なものですから、すぐにできるものではありません。皆さん自身もこの夢を追いかけてくれる人がいるのかなと、あるいは皆さんは 3 年生ですので、もうじき新しい進路に向かうわけですが、後輩の皆さんに思いをつなげていただければありがたいかなと思います。傍聴席には伊藤市長はじめ、小平副市長、本多教育長さんも見えておりました。今もいらっしゃいます。声はそれなりに届いていくものと思っております。本当に今日はありがとうございました。これからも皆さんのご活

躍を祈念いたしまして、総合講評の挨拶としたいと思います。本当に今日はありがとうございました。

中山万宝議員　皆さんご苦労様でした。今の気持ちはいかがですか。ほっとしてますか。それとも満足感を持てましたでしょうか。以上をもちまして、高校生未来会議の議場スピーチを終了とさせていただきます。ご起立をお願いします（全員起立）。礼（一同礼）。ご着席ください（全員着席）。大変お疲れ様でした。

＝新聞記事＝

新聞

政治や議会 身近に感じて

高校生未来会議 駒ケ根市議と赤穂高生が交流

高校生に政治や議会活動を身近に感じてもらおうと、駒ケ根市議15人が27日、同市赤穂の赤穂高校で3年の生徒ら200人と交流した。議員たちは「政治や選挙について知ってほしい」「皆さんが日ごろ感じていることを知る機会にさせていただきたい」と伝えた。（池山航一郎）

投票率の低下などの課題解決のため、昨年始まった主権者教育を推進する市議会による取り組み「高校生未来会議」の一環。議員が講師になり、選挙権や、政治の仕組みを教えた。

一方の生徒たちは、まちづくりの意見を議員にぶつけた。空き家の活用や公共交通機関の充実、既存の食文化に加え、昆虫食などの食文化を推し進めるよう求める声もあり、意見を議会での一般質問に生かそうとする議員もいた。

生徒会長の小松笠月さん(18)は「町の不便さを議員さんも感じていて、考えていることは一緒だと思った。親しみやすさもあった。ちょっとびっくりした」と話した。

議員と生徒は今後も交流を続け、まちづくりのアイデアをまとめる。12月6日に優秀なアイデアは市議会で生徒らの手によって発表される。市議の一人は「自分の住む町を考えることが、政治参加につながる。地元のことを考える時間にしてほしい」と話していた。

市議らと高校生が交流を深めた＝駒ケ根市の赤穂高で

令和６年９月　中日新聞

地域活性化へアイデア

赤穂高 高校生未来会議始まる

駒ケ根市の赤穂高校で27日、3年生200人が駒ケ根市の課題や地域活性化策などについて考える連続体験型講座「高校生未来会議」が始まった。生徒たちは、市議会議員との意見交換を経て学びを深めつつ、主張の裏付けとなるデータなどを収集。12月には学びの成果をまとめて、誰もが暮らしやすいまちづくりなどのアイデアを、駒ケ根市役所議場で市議らに提言することを目指す。

政治や議会に関心を持ち主権者意識が高まるようにと、駒ケ根市議会が導入した初の試みだ。同会議は計5回開催。3年生たちがグループごとに設けた観光振興や福祉、農業などのテーマに沿って、課題を探り具体的な解決策を考えていく。市議たちは会議の様子を見守り、随時アドバイスを送っていく。クラス選考会で代表に選ばれたグループは12月6日に議場に登壇、独自に考えてきた地域活性化策などを発表する予定だ。

初日は、生徒と市議との顔合わせなどがあり、市議会側が同会議を開く趣旨などを説明した。3年の宮下遼也さんは「駒ケ根は思い入れのある場所。これまで以上に関心を高めて、地域活性化につながるような実現可能なアイデアを考えていきたい」と意欲を見せた。小原茂幸議長は「政治に関心を持ち、当事者意識を持って世の中を変えていってもらえれば」と期待した。（寺田英祥）

高校生未来会議初日に行われたワークショップ

さんがコンテストの紹介やトピ

便利屋
＊ゴミ・片付けます。＊不用
＊重量物、運びます。＊不用
＊困りごと何でもやります。
☎73-9
南箕輪村南原　FAX

令和６年９月　長野日報

班ごとに練ったアイデアを紹介する生徒たち

駒ヶ根活性化策 若者視点で

赤穂高生が市議会に提案へ

駒ケ根市の赤穂高校3年生約190人が、地域の課題解決や活性化に向けたアイデアを市議会に提案しようと準備を進めている。高校生の視点で政治や地域づくりを考える機会をつくり、意見を市への提言に生かす同市議会の試み「高校生未来会議」の一環。市議会の議場での発表を来月に控えた21日、校内で5クラスごとの代表を決めるための最終発表をした。

取り組みは、選挙権年齢引き下げで政治や選挙が身近になった3年生を対象に9月から始めた。市議から政治や議会の役割を教わったり、助言を受けたりしながら、自ら考えたテーマに沿って課題や解決策を議論してきた。

B組では38人が七つの班に分かれ、公共交通の充実や地域の魅力発掘などのテーマで発表した。このうち、空き店舗の問題を抱える商店街の活性化策を考えた福沢浩太さん(18)らの班は、リニア中央新幹線の開業に合わせた町づくりを提案。商業集積を進めるための中心人物を全国から公募する案を紹介しつつ、企業誘致や人口増加には車の渋滞や交通事故が伴うことを示した。

この日は、実際の選挙で用いる投票箱を使い、議場で発表する代表を選ぶ「選挙」も実施。B組の代表には福沢さんの班が選ばれた。福沢さんは「計画で生じる課題を含めて分かりやすく伝えたい」と話している。

発券所が併設された伊賀良停留所を出発する高速バス

情報を得られる専用端末も設

令和6年11月22日　信濃毎日新聞

課題解決やまちづくりに向けたアイデアを発表する赤穂高校3年生

「より良い駒ケ根」へ まちづくりアイデア

赤穂高3年生 クラス内発表会

駒ケ根市の赤穂高校で21日、地域課題の解決方法をチームごとに考えてきた3年生約200人による、課題解決やまちづくりに向けたアイデアのクラス内発表会があった。五つのクラスごとに、各チームが〝政策〟を発表し、一人ひとりが心引かれたアイデアに投票。最多得票チームはクラス代表として、12月6日に市役所議場に登壇し、市議会議員に提案する。

政治や議会に関心を持ち、主権者意識が高まるようにと、同市議会が企画した5回連続体験型講座「高校生未来会議」の一環。市議15人が進行役を務め、代表チーム選出に当たっては、実際に使われている投票箱を使用。生徒たちは、級友が扮した立会人が見守る中で票を投じるなど、投票の流れの一端を肌身で感じた。

A組39人では、七つのグループが発表。公共交通機関の充実に向けてのICカード乗車券導入や水族館開設などを提案した。代表チームに選ばれたのは、「駒ケ根の自然を活かしたアウトレット」をテーマにした6人。古民家や廃工場を有効活用した親しみのある店舗にし、バリアフリーに対応するとともに、樹木を植えたり、高校生が企画したイベントを開いたりすることを提案した。リーダーを務める宮澤慶さん(18)は「より良い駒ケ根になるように、みんなで考えてきた。実現を目指して、頑張って発表したい」と意欲を見せた。

（寺田英祥）

令和6年11月27日　長野日報

街づくりに関するアイデアを発表する生徒ら

令和６年 12 月７日　信濃毎日新聞

駒ケ根市の赤穂高校3年生27人が6日、地域の課題解決や活性化に向けたアイデアを市議会に提案した。全5クラスからそれぞれ選ばれた代表者が、温めてきた構想を市議会の議場で発表。市議たちは、高校生の発想を市に対する提言に生かしていく。

高校生の視点で政治や地域づくりを考える機会をつくる同市議会の試み「高校生未来会議」の一環。生徒は9～11月の授業で、市議から助言を受けながらグループごとに具体策を考えてきた。11月下旬に各クラスで発表会を開き、「選挙」を経て議場で発表する代表グループを選んだ。C組の代表は、年齢を問わず市民

駒ケ根の活性化・地域課題解決に
赤穂高生　市会に提案

も観光客も楽しめるようビアガーデンとフラワーガーデンを併設し、飲食と花の観賞を一緒に楽しめる施設の整備を提案。アウトドアスペースを設けて器具を有償でレンタルしたり、同市が国際協力友好都市協定を結ぶネパール・ポカラ市と交流を深めて同国の花を取り入れたりするアイデアも披露した。

C組の唐沢昇汰さん(18)は「自分の班以外のアイデアを聞けて面白かった。良い意味での緊張感を持って楽しみながら発表できた」。小原茂幸議長は「市議会として執行部に伝えるものは伝え、実現に向けて、できるものは進めたい」と生徒をねぎらった。

令和６年 12 月７日
長野日報

課題解決へ具体策
活力あるまちづくり 代表５グループがアイデア

赤穂高３年　駒ケ根市議会に提案
「高校生未来会議」締めくくり

駒ケ根市役所議場で6日、地域課題の解決方法を考えてきた赤穂高校（駒ケ根市）の3年生が模擬議員となり、課題解決や地域活性化に向けた〝政策〟を発表した。政治や選挙への関心が高まるようにと、同市議会が初めて企画した5回連続体験型講座「高校生未来会議」の締めくくり。クラス代表の5グループが登壇し、外部人材登用による商店街活性化や自然を生かしたアウトレットの開設など、活力あるまちづくりに向けたアイデアを市議らに提案した。（寺田英祥）

駒ケ根市役所議場でアイデアを提案する赤穂高校３年生

同会議は9月にスタート。3年生約200人がグループごとに設けた観光振興や福祉、農業などのテーマに沿って課題を探り、具体的な解決策を考えてきた。市議15人は会議の様子を見守り、随時アドバイス。11月にクラスごと選考会を行い、代表グループを選出した。

この日は5グループが登壇。国際協力友好都市のネパール・ポカラ市の植物や食べ物などもそろえた、飲食スペースのある植物園の開設、温泉施設の源泉から湯を引いた温水プールの開設などを提案。空き店舗の目立つ商店街の活性化策として、リニア中央新幹線開業を見据えながら、立て直しを担う人材を公募して登用する案なども提示した。

福島琉生さんは「（会議を通して）社会への関心が高まった。実際に市議に接することで堅苦しそうなイメージが変わり、議員という仕事に興味が湧いた」と笑顔。今回出意見は、市議会で調査研究し必要に応じて市に提言していく。小原茂幸議長は「若者しく、素晴らしい発想の案かりだった」と評価。「政や町おこしに目を向けるきかけになれば」と願った。

アカマツ香る音鳴り玩具
乳幼児親子７組に「ファーストトイ」

南箕輪村

南箕輪村は6日、乳幼児に大芝高原のアカマツ材のおもちゃをプレゼントする「ファーストトイプレゼント」を保健センターで行った。1半健診のために訪れた7組

長野日報
Nagano Nippo
ご購読ありがとうございます
12月7日（土）
発行所　長野日報社
〒392-8611 諏訪市高島3 ☎0266-52-2000㈹
©長野日報社2024

認定補聴器専門店
日本生まれ、日本育ち。
補聴器
リオネットセンター南信
☎(0265)74-8370
伊那市中央（北町）5079-1

4910856350746　00100

ニュースヘッドライン

遊牧民の生活を紹介　2
伊那西高校の卒業生で、モンゴルで遊牧民として暮らす堀口由樹子さんが3日、母校で講演。民族衣装「デール」を身にまとい、移住のきっかけや同国の文化、遊牧民の生活を熱弁した。
7 中川中生徒会 能登に義援金
10 多世代交流「だがしや楽校」
2 6 7 11 地域のニュース
3 県内株式 3 ラジオ・CATV
3 小説 4 文化 5 レジャー・趣味
8 郷土紙連合 9 ひろば 9 市況